

2021年11月26日

住友生命保険相互会社

ブルックフィールドが運用するインフラファンドへの投資について ～脱炭素関連資産への投資を通じたパリ協定の目標達成～

住友生命保険相互会社（取締役 代表執行役社長 高田 幸徳、以下「住友生命」）は、エネルギーの脱炭素化を促進するインフラ設備や技術等への投資を行うファンド、ブルックフィールド・グローバル・トランジション・ファンド（以下「本ファンド」）に75百万米ドル（約85億円）投資することを決定しました。

各国の政府や企業がパリ協定の目標達成に向けて脱炭素社会への移行を優先事項に掲げるなど、脱炭素に向けた取組みに対する注目は世界中で高まっており、住友生命においても投資を通じた社会へのポジティブなインパクトの創出に取り組んでいます。

ブルックフィールドは再生可能エネルギー分野におけるリーディングカンパニーであり、パリ協定達成に向けたクリーンエネルギーの拡大や多排出事業に対して移行を促す投資や運営に多くの知見を有しています。また、本ファンドは温室効果ガス排出量やエネルギー消費量を削減することに加え、低炭素エネルギー設備の拡大や持続可能なソリューションを後押しする様々な地域での投資案件を対象としていることから、グローバルな気候変動の取組みや脱炭素社会への移行に貢献することを見込んでいます。

住友生命は、「なくてはならない」生命保険会社の実現を目指し、事業活動を通じたSDGsの達成に向けた取組みを進めています。また、責任投資（ESG投融資およびスチュワードシップ活動）をその主要な取組みの一つとして位置づけ、持続可能な社会の実現、および、中長期での投融資を行う機関投資家にとって運用収益の向上に資するとの認識の下、責任投資に取り組んでおり、本ファンドへの投資はその一環として行うものです。

今後も、責任投資を通じ、持続可能な社会の実現に貢献していくとともに、運用収益の向上に取り組んでいきます。

【本ファンドを通じて貢献すると想定される主なSDGs項目】



以上